

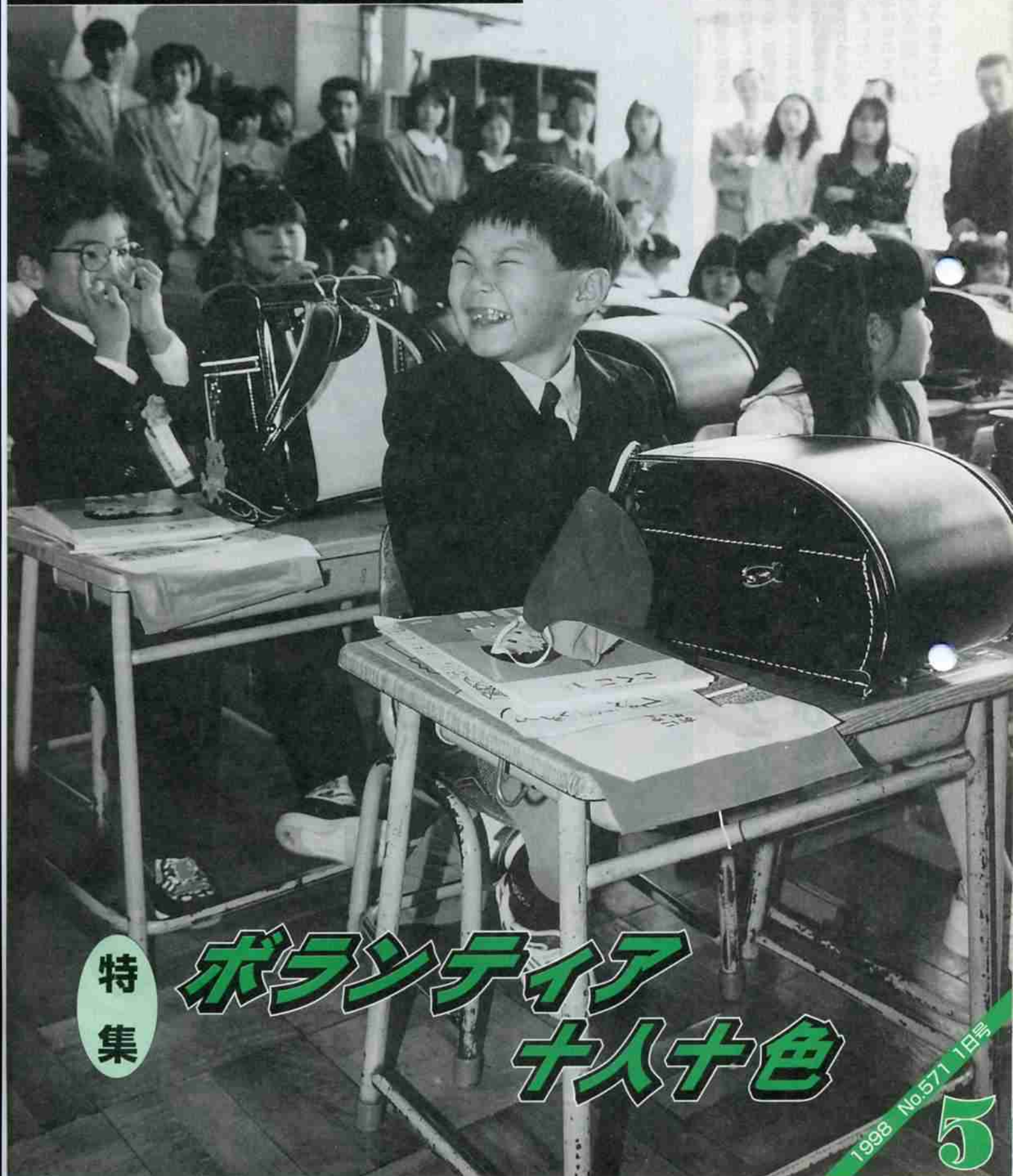
# のぼりべつ

広報

人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のぼりべつ

4月6日(月)から7日(火)にかけて、市内の小学校9校で入学式が行われました。今年の新1年生は昨年よりも13人多い466人。

ピカピカのランドセルととびっきりの笑顔がまぶしい春の一日でした。(写真は富岸小学校)



特集

## ボランティア 十人十色

1998 No.571 1日号

5





# ボランティア 十人十色

盲導犬を連れた方が、信号の前で立ち止まっている姿を見かけました。

「あれ、どうしたのかな。横断歩道を渡れないのかな。声をかけたほうがいいのかな」とためらっていると、近くを歩いていた学生が声をかけました。

「こんにちは。どうしました」。

「いや、初めて来た場所なのでなかなか勝手が分からなくて」。

「じゃあ、道路の向こう側までこー

絡みましょうか」。

「ええ、お願いします」。

そういって、二人は横断歩道を渡っていきました。

「私は、声をかけるのをためらってしまっただけ、人が人に優しく接するのは見ていると気持ちのいいものだ。

今度は、私も声をかけてみよう。それくらいの勇気と優しさなら私も持つて

ボランティア活動をしている人の話を聞くことがあります。  
ボランティアとは何でしょう。  
ボランティア活動とは何でしょう。



## 誰もが持っている優しい 気持ちを実行に

「ボランティア」というと「特別な資格や知識が必要ではないのか」「時間もかかり、気軽にできないのではないか」と思いがちです。でも、ボランティアとは、そんなにとっつきにくいものではありません。前ページで、盲導犬を連れた人を介助した学生の行動もボランティア活動の一つです。

困っている人を見かけたとき「何か自分でできることはないだろうか」と思う誰もが持っている優しい気持ち。それを行動に移すのがボランティアです。ボランティアに特別な資格や能力は必要としません。自らの意志で人々の幸せにつながる活動をしたいと思う気持ちがあれば誰にでもできることなのです。

ボランティアには、金銭的な報酬や労働の対価がありません。私たちが暮らしている社会は、利潤を追求する経済社会です。その経済社会において、ボランティアは単なるただ働きかもしれません。しかし、物質よりも精神的な喜びを貴ぶ心を持っている私たちは、利益に基づく行動よりも見返りを求めない行動に真の価値があることを知っています。心からの「ありがとう」の一言で、金銭に換算することのできない喜びを得ることができるのです。

## まちをつくる力それが ボランティア

ボランティア活動は、誰かに強要さ

## 人が人を育てる。 それがボランティア。

ふじえのりひこ  
藤江紀彦さん (登別市ボランティアセンター)  
ボランティア促進係長

ボランティアは人づくり・まちづくりなんです。ボランティアを始めようとする方で、「…してあげたい」という方がいますが、それはちょっと違うんです。

ボランティアは「…してあげるもの」ではなく「共に…するもの」なんです。「…してあげたい」と思ってボランティア活動を始めた方でも活動を続けているうちに必ず気づきます。

「私がボランティアをしているのだろうか。それとも私がボランティアされているのだろうか。」

ボランティアは、人と人が密接にかかわり合う活動です。そのかかわりの中でその人に何が必要なのか、自分には何ができるのかと考えたとき、人は成長するのではないのでしょうか。

相手の喜びを自分の喜びとして感じたとき、自分の心の中に眠っていたあたたかい感情を知るのではないのでしょうか。

殺伐とした話を聞くことが多い現代社会だからこそボランティア活動が必要なんです。人が人として生きていくために、ボランティア活動が必要なんです。

ボランティア活動をしている小学生がこんなことを話してくれました。「ぼくがボランティア活動をしていると、大人はみんな同じことを言うんだ。「ボランティアしてるの。偉いねー」って。なんでボランティアしてると偉いのかな。ぼくは、ぼくにできることをしているだけなのに」。

そのとき私は思いました。さまざまな知識を持っているつもり私たち大人よりも、子どものほうが人間として必要なことを知っている。

ボランティアは人を育てます。人が人を育て、人がまちを育てていくのです。



れて行うものではありません。自らの意志、自発的な意志に基づいて行うことが大前提です。自分のまちを見つめ直し、何か問題点はないか。自分の地域を見渡し、こ

こを改善すれば、みんなが幸せに暮らせるまちになるのではないか。

ボランティア活動は、自分たちが暮らすまちや地域を見つめ直し、問題点に「気づく」ことから始まります。

しかし、いざボランティア活動を始めようと思っても、なかなかまちや地域の問題点を見つめることができないかもしれません。

ボランティア活動に興味がある。ボランティア活動を体験してみたい。でも、方法が分からない。そんな方は、登別市ボランティアセンター(しんた21内 ☎2080)に一度ご相談ください。ボランティアセンターでは、ボランティアしたい人やグループなどが

安心して活動できるように登録制度を設け、いろいろな活動の紹介や活動のための研修の機会を設けているほか、さまざまなボランティア活動を体験することが出来る「ボランティア体験月間」や「市民ボランティア講座」などを実施しています。

現在、ボランティアセンターには、約200人の個人ボランティアと33団体約1千200人のボランティア団体が登録され、幅広いボランティア活動が行われています。

次ページ以降では、ボランティアセンターに登録し、精力的な活動を行っているボランティア団体のいくつかをご紹介します。

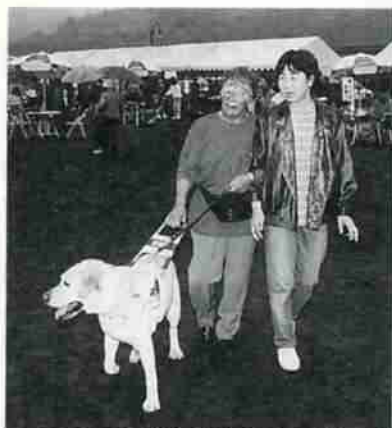


## その人の目となり、その人の心になる

登別視力障害者協会の方が行事などへ参加するときに付き添うガイドヘルプ活動をしていただく方が集まり、平成6年4月に設立された「登別ボランティアボランティアの会」。

8人の会員がそれぞれ時間的に無理のないように手分けし、視力障害者協会会員のガイドヘルプやレクリエーション活動などを行っています。

「ボランティア活動を始めるときは、勇気が必要でした。私が視力に障害をもつ方の力になれるのか不安でした。でも、相手の立場に立って活動を続けていくうちに、なんとなく相手の気持ちが分かるようになってきたんです。そして、だんだん自分が優しい気持ちになっていくのがわかりましたね。ガイドヘルプをしていても、私たちのほうが教えられることが多いんです。みなさん、何事にも前向きで、い



▲ふれあい広場で行われた「ボランティアウォーク」

つも明るいです。このボランティア活動を通して、私は多くのことを学びました。私は今年で70歳になりますが、健康なうちは自分でできることを続けていきたいと思っています。私たちの会は若い世代の方が少ないんです。

「しんた21」を会場に毎年行われているふれあい広場では、目隠しをして視力に障害をもつ方の疑似体験をするボランティアウォークなどを行っていますので、多くの方に体験していただきたいですね。ガイドヘルプの仕方について興味のある方はご連絡ください。いつでも講習いたします」と朗らかに話す泉芳子会長。登別ボランティアボランティアの会の活動に興味のある方は泉さん(☎01663)までどうぞ。

## 若さと自然体でボランティア活動を

北海道福祉衛生専門学校(室蘭市母恋北町)の学生などが集まり、視力や聴力に障害をもつ方の外出介助、デイサービス利用者の介助のお手伝いなどを行っている「ボランティアサークルひこうせん」。

せかされずにゆつくりとみんなを乗せて確実に飛んでいこうという思いが会の名称に込められ、平成8年5月に設立されました。男性2人、女性4人の計6人で平均年齢21歳という若い方たちで組織されているボランティアグループです。

「昨年は、車いす利用者と視力に障



害をもつ方たちをサポートし、JR登別駅から列車を乗り継いで栗沢町の道立福祉村に抜け、バリアフリー(道路の段差の解消や施設などのスロープ化など、お年寄りや障害をもつ方などが快適かつ安全に日常生活を営めるよう施設を整備すること)の実践を勉強したり、手足などに障害をもつ方の団体旅行のお手伝いを行ったりしました。また、デイサービス祭りやふれあい広場、ヤングボランティアフォーラムなどのお手伝いもしています。会員の活動範囲はグループ活動に限定せず、会員個人のボランティア活動も認めています。今後は、他市町村のボランティアグループとのネットワーク化や福祉だけでなく医療ボランティアにもかかわっていききたいと考えています。自然体で自分たちがやってみてほしいと思うボランティア活動を募集していますので、気軽に参加してください」と代表の佐藤淳さん。

ボランティアサークルひこうせんの活動に興味のある方は、登別市ボランティアセンター(☎2080)まで

## 高齢者福祉ボランティアの先駆け

本格的な高齢化社会を迎えた今、自分たちができることは何かを考え、集まった仲間により平成3年6月に設立された「在宅福祉ボランティアとわの会」。

会を設立して最初に取り組んだのは、特別養護老人ホーム「緑風園」での寝たきり高齢者の入浴介助でした。平成6年4月からは「しんた21」で開始されたデイサービス事業でのボランティアを中心に活動しています。設立当初13人だった会員も現在は24人に増え、デイサービス利用者への入浴後の整髪や車いす利用者の介助、話し相手、リハビリを兼ねたレクリエーションのお手伝いなどを行っています。



また、デイサービスの一環として行われているデイサービス祭りはじめ、花見、紅葉狩りなどの行事にも参加しています。

「昨年9月に行われたデイサービス利用者の買い物行事で登別サティと一緒にに行きましたが、利用者が生き生き



として買い物をしてる姿を見たとき、ボランティアに携わっていてよかったなあと感じました。毎年、社会福祉協議会が主催するふれあい広場や在宅介護講習会、ボランティアフォーラムなどに参加していますが、これからはボランティアの果たす役割がますます重要になると思っています。誰もが年老いていきますので、みんなで助け合っていかなければならないと思います。とわの会にも多くの方に参加していただけだと思います。特に若い方の会員が少ないのもっと参加してほしいですね」と話す砂田チエノ会長。在宅福祉ボランティアとわの会の活動に興味のある方は砂田さん(☎5928)までどうぞ。

### 登別朗読ボランティアの会

## 自分のできることを日々、淡々と

毎月2回発行される「広報のぼりべつ」をはじめ、「しんた21点字図書室」の弱者用大活字本148冊や会員が自由に選定した小説など、さまざまな書籍をテープに録音し、約2千本にも及ぶ「声の図書」を作成してきた「登別朗読ボランティアの会」。昭和61年7月の設立当時は5人だった会員も18人に増え、現在はテキストなどを使って、技術の向上にも力を入れています。

「朗読とボランティアの精神は同じところにあるのかもしれない。朗読は、読み手の感情を押しつけず、作者の心と情感を淡々と伝えなければなり



ません。読み手の感情で、誇張して読んでたりするのはいけないことなのです。ボランティア活動も同じで、ボランティアの感情を押しつけず、ボランティアされる側の心を読み取り、淡々と活動していくことに意義があるのではないのでしょうか。一口に朗読といっても、ただ読めばいいというものではなく、書かれていることを正確に伝えなくてはなりません。広報紙には、私たちが暮らしていくうえで大切なことがたくさん書かれていますから神経を使います。練習時間も含めたら、一カ月の広報紙を「声の図書」として完成させるまでに10時間ぐらいかかります。初めて広報紙を担当し、テープの録音が終わったときに声をあげて泣いてしまった方もいるぐらいです。私もこのボランティアをやめようかなと思ったこともありましたが、今まで続けてこれたのは、決して「人のため」だからではありません。かといって「自分のため」だけに続けてきたわけでもないと思うんです。自分のできることを、気負わず真剣に淡々とこなしていくボランティア。やっぱり、私はこの活動が好きなんです。と話す小竹陽子会長。登別朗読ボランティアの会の

### 登別市ボランティアの会

## 明るいまちづくりを目指して

活動に興味のある方は、事務局滝内智子さん(☎1138)までどうぞ。

「子どもたちの笑顔や困っている人の喜ぶ顔を見るのを楽しみにしながら活動を続けています」と語るのは、「登別市ボランティアの会」会長の井上ハルヨさん。

登別市ボランティアの会は昭和52年8月に結成され、活動を始めてから21年目を迎えた現在の会員数は36人。



「しんた21」を活動の拠点として、毎週1回例会を開き、和裁や洋裁の腕を生かして布の絵本やおもちゃなどの製作を行っている。出来上がった布の絵本は、市内の保育所や小学校などへ貸し出ししているほか、ぞみ園、

図書館などへ寄贈しています。

毎年9月末には、会員などから食器や衣類、日用品などで不用になつたものを集めて即売会を行い、活動資金の確保に努めるとともにリサイクルの推進に向けた活動を行っています。また、視力障害者協会との交流を深め、宿泊研修時における介助やガイドヘルプ活

動なども行っています。

「子どもたちに夢を与えられるような活動を続けていきたいですね。また、困っている人に喜ばれるような活動を続け、明るいまちづくりにつながるよう頑張っていきたいと思います。若い方の会員が少ないので、もっと参加してほしいですね」と話す井上さん。登別市ボランティアの会の活動に興味のある方は井上さん(☎6825)までどうぞ。

### ボランティア花つなの会

## 形にとらわれないボランティアを

平成8年に開催された社会福祉協議会主催による「第4回市民ボランティア講座」の受講生を中心に、平成9年3月に設立された「ボランティア花つなの会」。

「たくさん糸を束ねると1本の綱になるように、多くの人が集まると一つになろうという願いと、女性会員が多いことから「花つなの会」と名付けたいです」と語るのは会長の山口富智子さん。

現在の会員数は、男性2人、女性18人の計20人。ボランティアを通して、自分たちの意識を高めることを目的に、しんた21で行われるデイサービス祭りやふれあい広場などのさまざまな行事で、障害をもつ方の介助や託児の協力など、形にとらわれない幅広いボランティア活動を展開しています。

「ボランティアに携わるようになって間もないころは、盲導犬を連れて歩



## めぐりの会

# 楽しいボランティアを させてもらっています

10年前の昭和63年6月、登別市婦人短期大学を卒業した女性たちが、同短大で学んだことを地域に生かしたいとの思いから結成された「めぐりの会」。同会では、まず身近なところからの実践をと、川上町にある養護老人ホーム「恵寿園」内の清掃を始めました。1カ月おきに恵寿園に向き、ホールや食堂、廊下、トイレなどの清掃を行っています。

「めぐりの会」の会員は、女性14名で構成されています。会の名称は、親鳥が卵を羽毛で暖かく包み、ひなをか



えすようなやさしい気持ちで会を育てていけるようにと名づけました。毎年9月の恵寿園まつりでは、家族の来られないお年寄りやがさみしくないようにと話し相手をさせて

いただいています。昨年、会設立10周年を迎えましたので、勉強の意味で帯広市の養護老人ホームを見学してきました。また、めぐりの会では、子守もしています。子守といってもお子さんを会員の自宅で預かるのではなく、託児ボランティアというのでしょうか。市内で行われる行事の時間内だけ会場内で、お子さんのお世話をさせていただきます。会員はみな子育ての経験者ですので、子守はお手のものです。ボランティア活動は、各委員の都合のよいときに無理をしないようにしています。会員はみんな優しく楽しい方ばかりですので、長続きしているのでしょうか。会員の中には、会以外のボランティア活動にも積極的に参加している方もいます。ボランティア活動は、してやっているとこの世ではなく、させていたただいてくれるという気持ちが大変だと思えます。会員のうち誰かが動けなくなったら、お互いに介護などのボランティアをし合おうと話しているんですよ」と代表の小沢裕美子さん。

## 登別手話の会

# 手話を通じて自分を見 つめ直す

めぐりの会の活動に興味のある方は、小沢さん（☎6084）までどうぞ。

聴力に障害をもつ方へ手話通訳を行う仲間が集まって昭和50年10月に設立された「登別手話の会」。

毎年「しんた21」で開催されているふれあい広場をはじめ、市内の各種行事での手話通訳を主な活動としています。また、手話の普及にも力を入れ、市民を対象とした手話講習会や市内小学校での手話講習、社会福祉協議会が主催するボランティア体験月間での手話教室などを開催し、幅広い普及活動を行っています。現在の会員数は男性4人、女性27人の計31人で、毎週火曜日には会員が「しんた21」に集まり、手話技術研修会を開催するなど会員個々の研さんに励んでいます。



「手話は、耳の不自由な方と会話するための大切な手段の一つです。最近では、手話を覚えたいという方が増えてきていますが、単に手話の技術を身に付けるだけでなく、手話を通して人に対する優しさや思い

## ハンズ・メイト

# 技術と真心を提供します

やりなど、大切なものを学んでほしいですね。人は誰しも利己的な部分を持っていると思いますが、ボランティアとして活動することで自己を離れ、他人を中心に物事を考えていくようになります。ボランティアとしてのいろいろな経験、そして人とのふれあいが、新しい自己の発見につながるのです。次代を担っていく若い人々には、手話を通じてさまざまな体験をしてほしい。そして大きな視野に立って物事を判断できるようになってほしいですね」と熱心に話す浜田一夫会長。登別手話の会の活動に興味のある方は浜田さん（☎0131）までどうぞ。

障害をもつ方や寝たきりの方が下着やズボンを着用しやすいうようにリフォーム（仕立て直し）しようと、平成9年1月に設立された「ハンズ・メイト」。登別市婦人短期大学の「ボランティア講座」を受講し、寝たきりのお年寄りを介護する大変さを知った猪手栄子さんが、自分の洋裁技術を生かして、困っている人のためにできることはないかと始めたのが衣類のリフォーム活動でした。寝たきりの方が下着や寝間着などを頭からかぶって着ることは難しいので、前開きに改良すれば便利になることに目を付けた猪手さん。婦人服の仕立てをしていただいた経験から、少しでも多



くの方が喜んでくれればと猪手さんが始めたリフォーム活動に次々と賛同する方が現れ、「ハンズ・メイト」が生まれました。

現在の会員数は、会長の猪手さんをはじめ11人。リフォームに会員の意見を取り入れ、多くのアイデアを生かすことができるよう、研修や講習会などを重ねながら活動を続けています。

「私たちの活動は、衣類を新しく仕立てるのではなく、現在着ているものや着古したものを使いやすいように直すことです。リフォームには、糸やボタン、ファスナーなどの必要経費をいただきますが、技術料はかかりません。必要とする方に必要なものを作り、技術と真心を提供する。それが私たちのモットーです。得意な洋裁で多くの人が喜んでくれれば、こんなにうれしいことはないですね。注文があれば家まで出向き、本人や家族の方と相談して、その人に見合ったものをリフォームします。ので、気軽に声を掛けてください」と猪手さん。

ハンズ・メイトの活動に興味のある方、リフォームを希望する方は登別市



ボランティアセンター(☎2080)までどうぞ。

## 登別市点訳赤十字奉仕団

### 一人ひとりの気持ちになつて

視力に障害をもつ方にも読書を楽しんでもらおうと、昭和61年3月に設立された「登別市点訳赤十字奉仕団」。

現在の会員数は26人で、「広報のぼりべつ」や「市民便利帳」のほか、バス・列車時刻表などさまざまなものを点訳しています。

「しんた21」のパソコン点訳機を使うようになってから、以前と比べて点訳作業も楽になりました。設立当時は、針で一文字ずつ打っていく点字板や左右3本の指を使って打つ点字タイブを使っていたので、一文字でも間違えるとすべて打ち直さなければなりません。パソコン点訳機は、間違えたところも簡単に修正することができ、また、一度点訳したものを何枚も複製できますので、同じ資料を多くの人に渡さなければならぬ会議資料の点訳作業も正確・迅速に行えるようになりました。点訳で一番大切なことは、読み手の立場に立って、読み手が読みたいものを読みやすくつくることにあります。点訳依頼される書籍はさまざまで、中にはかなり分厚い本もあります。しかし、点訳作業は時間がかかるため、パソコンを使ってでもなかなか短時間で読み手に渡すことができません。初心者講習会も開いていますので、実



際に点訳活動をしなくても、多くの人に点字を知ってほしいですね。そして、時間の許す限り点訳活動に参加していただけじゃうれいすね」と話す伊達豊子委員長。登別市点訳赤十字奉仕団の活動に興味のある方は事務局志賀征子さん(☎7581)までどうぞ。

### 一人ひとりがボランティア

これまで紹介した団体のほかにも、一人暮らしのお年寄りの家に「お元気ですか。おかわりないですか」と電話をかけ、安否の確認や話し相手をする友愛電話サービスなどを行っている「登別市老人クラブ女性部」、家事援助や軽度の介護サービス、通院時の移送サービスを行っている「いぶりたすけ愛」、体の弱いお年寄りなどの衣服の仕立て・直しを行っている「和裁ボランティアグループ」、バードウォッチングや自然観察などを通して自然に親しみ、自然を愛する心の育成活動を行っている「自然愛好グループヨシキリの会」、地獄谷を訪れる観光客を温かくもてなし、地獄谷の歴史や周辺の自然などを説明する「登別市観光ボラン

ティアガイド」、郷土資料館・文化伝承館で行われるそば打ちや竹馬づくりなどの体験学習を通し、次代を担う子どもたちへのほりべつの文化を伝える「ボランティアグループSELG」、個人ボランティアがつくったお弁当をお年寄りや障害をもつ方に届ける給食配送サービスを行っている企業ボランティア「保望月製麺所ボランティア」など、さまざまなグループがボランティアセンターに登録し活動しています。

ボランティアの活動内容は十人十色。人と人が出会い、そのかかわりの中で生まれるボランティア活動の種類に限りはありません。出会いの数だけボランティアは生まれます。そして、そのボランティアが新たな出会いを生み出すのです。

ボランティア活動と日常生活は、切り離して考えることはできません。ボランティア活動は日常生活の中にある、私たちの日々の生活に密接にかかわっています。

ボランティア活動は、決して一部の私たちの活動ではなく、ましてや福祉にかかわっていると思われている人たちの課題でもなく、私たち一人ひとりが「暮らし」を見つめ直す活動なのです。

今号でご紹介した団体の掲載順は不同です。



## 装いも新たにオープン

4月1日(水)、外壁の一部を張り替えし、一般用・幼児用プール内を塗り替えた千歳町の市民プール(温水)が、装いも新たにオープンしました。幼児用プール(縦15m、幅3.5m、深さ45cm)の底には、子どもたちがもっと水に親しめるよう、幌別小学校児童を対象にイラストを募集し、集まった400枚の作品の中から選ばれた、ラッコ、カメ、ペンギン、金魚のかわいらしいイラストが描かれました。

この日は、イラストを描いた児童へ「これからもすてきな絵を書いてください」と絵の具が贈られました。



## 女性はもっと政策決定に参画を

4月16日(水)、市民会館で助市川房枝記念会常務理事の山口みつ子さんを講師に『男女共同参画社会づくりを目指して』と題して講演会が行われました。

この講演会は、のぼりべつ男女共同参画懇話会と登別市の共催で、登別市の21世紀を見据えた住みよいまちづくりの意識の高揚と、実践活動への参加を目的に開催されました。山口さんは講演の中で、国の男女共同参画2000年プランにふれ、政策や方針決定への女性の参画や男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革などを熱く訴えていました。



## エレベーターを設置しました

『人にやさしいまちづくり事業』の一環として、お年寄りや車いすの方などが公共施設を気軽に利用できるように、市役所本庁舎と市民会館にエレベーターを設置しました。3月30日(水)には、老人クラブ連合会や障害者団体の代表者を交えたテープカットが行われました。エレベーターには、視力に障害をもつ方に配慮した点字の表示や音声による案内装置が取り付けられています。

平成10年度は、鉄南ふれあいセンターにエレベーターの設置を予定しています。



## 技術と人間を磨きます

4月14日(水)、札幌市の日本工学院北海道専門学校で第17回入学式が行われ、男子237人、女子16人、計253人の新入生が学生生活をスタートさせました。

式典では、中山浩資校長が「これからの時代は、この学校を出たのではなく、社会に貢献できる技術や知識をどれだけ身に付けたかが問われます」と新入生を激励。続いて、情報ビジネス科の政野睦巳さん(伊達高校出身)が新入生を代表し、「技術的にも人格的にも、時代をリードしていける人間になれるよう、努力していきます」と抱負を述べました。





## 今年も巣をつくってね

4月15日(水)、登別温泉中学校の生徒による小鳥の巣箱掛けと、地獄谷周辺の清掃が行われました。

この行事は、巣箱掛けや清掃活動を通じて、動物を愛護し郷土を愛する心を養うことを目的に毎年行われているもので、今年で10年目になります。

生徒会長の木下暁輔君があいさつを行った後、24人の生徒たちは、さっそく大きな木に脚立を立て掛け、15個の巣箱を手ぎわよく取り付けました。巣箱には、シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラなどの小鳥が巣をつくります。



## 遠くまで飛ばそう 竹とんぼ

昔なつかしい竹とんぼづくりが4月11日(土)、郷土資料館で行われ、親子など10人が参加しました。

この竹とんぼづくりは、小・中学校の週休日を活用して開催されている体験学習事業の一つで、毎年行われている人気事業。同館で活動しているボランティアグループSLGの指導のもと、子どもたちは用意された真竹を慣れないナイフで削り、紙やすりをかけて竹とんぼを完成させました。

子どもも大人も、苦労してつくった自分だけの竹とんぼを飛ばし、出来栄えに満足そうでした。



## 私だけのこけし できました

4月15日(水)、幌別西小学校でこけしの絵付け教室が開催されました。

この絵付け教室は、登別市と姉妹都市である宮城県白石市の伝統文化に触れようと、小学校持ち回りで毎年行われているもので、函館市在住の「弥次郎系こけし」工人清水たかよさんの指導のもと、同校の6年生105人と片倉町の老人クラブ梅光会のお年寄り10人が絵付けに挑戦しました。子どもたちとお年寄りは、用意された白木のこけしに目鼻や髪を慎重に書き入れ、できなかったこけしの出来栄えに笑みをうかべていました。







たけうち よしこ  
**竹内芳子さん**

昭和28年7月10日生まれ。44歳。保健のスペシャリストとしてのアドバイスは常に的確で地域住民からの信頼も厚い。

22年目を迎えた竹内さん。その活動は、さ

地帯に密着した保健活動を行い、今年で

平成6年1月6日、保健・福祉活動の拠点としてオープンした「しんた21」。



# しんた21

総合福祉センター「しんた21」  
片倉町6丁目9-1 (050100)

「しんた21」では、のぼりべつに暮らす誰もが健康で生きがいのある毎日を過ごせるよう、さまざまな団体が活動しています。

乳幼児から成人まで幅広い年齢層を対象にした健康相談・診査をはじめ、のぼりべつの保健福祉活動を推進する「市保健福祉課」、在宅で体の弱い高齢者や障害をもつ方のデイサービスを実施するほか、登別で行われるさまざまな福祉活動をリード

する「社会福祉協議会」、看護や介護を必要とし、我が家で暮らしたいと願う高齢者や障害をもつ方とその家族を支援する「総合在宅ケアセンター」、子育てをしながら働くお母さんを支援する「ファミリーサポートセンター」、各種障害者団体、ボランティア団体など、その活動は多岐にわたっています。

「保健活動とは、夢と希望をその小さな手に握り締め生まれてきた赤ちゃん、家族を養うために一生懸命に働くお父さん・お母さん、生きがいをもって充実の時を迎えた高齢者の方、誰もが健康で

幸せに暮らすことができる環境づくりを進める活動です」と語る竹内芳子さん。

人が輝きまちがときめく

## 仲間たち Group

### 驚別剣道スポーツ少年団



青少年の心の荒廃が叫ばれる今日、剣道を通して子どもたちの心を育てる。

「剣の道は、礼に始まり礼に終わります。まず、礼儀作法を身に付けるよう指導しています。また、剣道は相手があつて成り立つことから、相手を思いやり、敬う心を育てるよう心掛けています」と語る代表指導者の安食孝さん（68歳）。

昭和44年に結成され、今年で29年目を迎えた驚別剣道スポーツ少年団の現在の会員数は男子29人、女子5人の計34人。

市内の小・中学生が安食さんの指導のもと、驚別青少年会館で毎週水・金・土曜日の4時30分から2時間間におたり練習に励んでいます。

4月29日に千歳市で行われた大会をはじめ、年間を通して全道・全国大会など10大会程度に出場している

同団は、茨城県水戸市で開催される全国少年錬成大会や日本武道館の全

国大会などにも出場し、その名を全国にとどろかせているそうです。



「父母の方に支えられて今日まで続けていくことができました。子どもたちに身に付けてほしいことは、礼儀はもちろんのことですが、何事もやり遂げる精神力、そして我慢強さです。私は、剣道を通してそのことを子どもたちに教えていきたいと思っています。何事もそうですが、剣の道では日々のたゆまぬ努力が技術と精神力の向上につながります。練習は、ただ厳しく団員に接するのではなく、ほめるときはほめ、しかるときはしかり、団員の個性を伸ばす指導を心掛けています。剣道を楽しみ、練習に励むことで、決断力や集中力が身に付いてくるんですよ。以前からみると団員は少なくなってきましたが、もっと多くの子どもたちが参加することを願っています」と話す安食さん。

入会を希望する方は、安食さん(0509459)までどうぞ。



## ちよっと ひとごと

楽しかったこと、悲しかったこと、うれしかったこと、市への疑問や意見・要望などを企画広報室へ電話やはがき、封書、ファクスでお寄せください。紙面上では匿名でも氏名、住所、電話番号をお知らせください。なお、個人や団体への中傷や営利を目的としたお話しはご遠慮ください。

企画広報室 中央町6-11  
☎1122 FAX1108



### 市民便利帳を手にして

4月上旬に市民便利帳が届きました。文字がとても大きく、老眼の私でも眼鏡を使わずに読むことができました。内容もお年寄りの介護や医療機関、ごみの収集など、普段の生活に欠かすことのできない事柄が分かりやすく記載され、電話番号も見やすいので大変助かります。ただ、避難所の地図は、もう少し大きいほうが分かりやすかったと思いますが、とても立派な便利帳なので大切に使おうと思っています。(柏木町 主婦)

### カラスの巣をなんとかして

自宅近くの木の上にカラスが巣をつくりました。巣の近くを人が通ると、ひなを守るためにカラスが人を威嚇すると聞いていますのでとても不安です。なんとかならないでしょうか。(片倉町 主婦)

【お答えします】

春から初夏にかけ、カラスは巣をつくり子育てをします。カラスに襲われないよう、巣に近づかないなどの注意が必要ですが、巣の駆除が必要なときは、清掃業務課(☎2958)にご連絡ください。(市民生活部清掃業務課)

さまざまな年齢層を対象にした健康相談や健康診査、高齢者や妊婦などがある家庭を訪問し、健康状態や生活習慣のチェック・改善指導を行う訪問指導・相談など、病気になるらない体づくりに重点を置いています。

「私たち保健婦は、病院の中ではなく地域の中で働く看護婦なんです。私たち人間が生きていくうえで一番大切なものは健康です。健康であるためには、食生活の改善や運動を取り入れるなど、日ごろの生活習慣を見直し、病気になるにくいライフスタイル(衣食住だけでなく、娯楽なども含む暮らしぶり。生活に対する考え方や習慣)を確立することが重要です。病気になるってから治療を受けるのではなく、病気になるないための予防に目を向けてもらう。そして、時間をかけてライフスタイルを改善し、健康に暮らせる生活を実現してもらおう。幸せに暮らすためのお手伝い、そして誰もが健康で生き生きと生活できる環境づく

▼9人の保健婦が配置されている健康指導係



り、地域づくりを進めるために活動する看護職、それが私たち保健婦なんです。健康に暮らしたい、ライフスタイルを見直したいという方は、お気軽に「しんた21」にご連絡ください。私たち保健婦が、精いっぱいお手伝いします」と話す竹内さんは「今日も市内を飛び回っています。誰もが幸せに暮らせるまちの実現に向けて。」



かがやいくみ  
加賀谷郁美さん(20歳)

わかさいも本舗登別店「ちよいす」勤務

「また来たい」と思っていたけような接客を

「勤めてから約半年になります。暇を持って余しているより、忙しく働いているほうが好きなので、この職場は自分の性格に合っています」と話す加賀谷さん。

わかさいも本舗の回転ずし部門としてオープンした「ちよいす」で、加賀谷さんは客席への案内や注文、レジを担当しています。

「お待ちいただいているお客さまを順番にご案内していると、無理を言う方もいて応対に困るときもあります。どんなに店が込んでいても、お客さまにおいしいものをたくさん召し上がっていただき、また来たいと思っていただけるような接客を心掛けています」と話す加賀谷さんの笑顔が「ちよいす」の味をよりいっそう引き立てます。





父親の勧めで5歳から始めた三味線。兄とともに腕を磨き、奏者の道へ。

吉田さんが津軽三味線を始めたのは5歳のとき。父親の勧めで兄の良一郎さん（20歳）とともに習い始め、互いの技術を磨き合ってきました。

「幼いころは三味線を習うことがいやでした。お祭りのステージで演奏している姿を友達に見られて、よくからかわれましたから。でも、小学5年のとき、初めて全国大会に出場してから考え方が変わりました。同年代の出場者がいたことに刺激されたんです。それからは練習にも力が入りましたよ。兄と一緒にたつことも心強かったです。兄から学ぶことも多かったですから。三味線のプロになることを決意したのは高校生になってからです。将来のことを考えたとき、三味線に自分の生きていく道を見いだせると思ったんです」。

高校を卒業した現在は、小学生から70代まで7人の弟子を指導しながら、登別温泉のホテルでの公演や各地で開かれる演奏会など幅広い演奏活動を続ける一方、毎日2時間の練習をこなし、たえず自己研さんに努めています。

「どんな曲でも自分なりのアレンジ（編曲）ができる。一番好きな曲は『津軽じょんがら節』。この曲は、演奏者の数だけあるんですよ。ぼくの弾くじょんがらはぼ



くだけのもの。弾き手の心を音に映すことができる。それが津軽三味線のだいご味ですね」

**あえて地元に残り、プロの世界を目指す。**

兄の良一郎さんが東京で修行を積んでいる今、活動拠点にあえて故郷登別を選んだことは一大決心だったという吉田さん。

「東京からの誘いもありましたが、二人とも登別を離れてしまえば地元で根付いた活動ができなくなってしまう。将来は、自分の流派をつくるのが目標です。多くの人に津軽三味線の魅力を伝えたいですね」。

三味線のプロを志し、未知の世界に足を踏み入れた吉田さん。一つの道を究めんとする若者のパチは、人々の心の琴線弾きます。



きらり

KIRARI

よし だ けん い ち

**吉田健一**さん（富岸町）

津軽三味線奏者のプロを目指し、市内を拠点にした演奏活動や弟子の指導をしながら、修行を続けている吉田健一さん（18歳）。この春、高校を卒業し、4月5日に東京で行われた「第1回津軽三味線コンクール全国大会」（日本民謡協会主催）一般の部で準優勝を獲得した吉田さんに話を聞きました。

**三味線のプロを目指す。将来は『吉田流』を築くのが夢。**



あらかると

岡志別の森運動公園

テニスコートオープン

岡志別の森運動公園テニスコートが5月16日(土)にオープンします。なお、5月16日(土)・17日(日)の2日間は無料開放します。

▼施設内容 砂入り人工芝4面(うち夜間照明付き2面)、クレイコート2面

▼利用期間・時間 5月16日(土)・17日(日) 6時～21時

※ただし、5月16日(土)は15時から。▼使用料

①個人使用料

区分	利用者	使用料
一般使用料 (1時間につき)	大人	100円
	高校生以下	50円
回数券使用料 (12枚つづり)	大人	1,000円
	高校生以下	500円

※個人使用は指定されたコートを共同で使用します。

②専用使用料

利用時間	1面1時間につき	
	大人	高校生以下
3時間まで	800円	400円
3時間を超える部分	600円	300円

③夜間照明使用料

1面1時間につき500円

▼問い合わせ 岡志別の森運動公園管理事務所(☎252525)

市民テニス教室を

開催します

岡志別の森運動公園テニスコー

トの完成を記念して、プロのテニス講師を招き、テニス教室を開催します。

▼月日 5月16日(土)

▼時間 午前の部：10時～12時、午後の部：13時～15時

▼講師 渡辺功さん、大森敬雄さん

▼対象 市内に居住する小学生以上の方

▼募集人数 午前・午後の部それぞれ50人

▼受講料 100円(保険料)

▼持参するもの テニスシューズ、硬式用ラケット

▼申し込み・問い合わせ 社会教育課(☎1100)

市民見学会に

参加しませんか

私たちのまち・登別市の姿を市民のみなさんに見学していただくため、市民見学会を開催します。新たに転入した方、また長い間住んでいる方でも、意外と知らない市内の施設をこの機会に確かめてみませんか。

▼見学日 5月10日(日)・11日(月)

(雨天決行)

▼出発時間 市役所9時、登別支所9時15分、鶯別支所9時40分

▼対象 市内に居住し、個人で参加を希望する方

▼定員 各日30人(定員を超えた場合は抽選)

▼参加料 無料

▼持参するもの 昼食

▼見学先 亀田記念公園、若山浄化センター、しんた21、清掃工場、新ごみ処理施設(建設中)、産業廃棄物処理場、グリーンコート三愛、登別地獄谷など(変更の場合あり)

▼申し込み・問い合わせ 5月8日(金)までに企画広報室(☎1122)

まちをきれいに!

春の登別クリーン作戦

市内を清潔で、快適な美しいまちにするため、町内のごみを一掃しましょう。

▼日時 5月17日(日) 8時～9時

(小雨決行)

※雨天時は、5月24日(日)に順延します。

▼集積場所 9時までに各地区のごみステーション

※空き缶は透明な袋に入れるか、表示して出してください。また、当日は、家庭内から出るごみは出さないでください。

▼問い合わせ 環境資源課(☎2005)

『新図書館構想21人委員会』の委員を募集します

21世紀に機能する登別市にふさわしい新図書館建設の基本構想の策定に向けて、市民のみなさんの意見を参考にするため、『新図書館構想21人委員会』の委員を募集します。

▼応募資格 市内に居住する高校生以上の方(無報酬)

▼任期 平成10年度から2年間

▼募集人数 21人

▼内容 おおむね10回の委員会出席、図書館に関する学習、先進地図書館の見学、意見交換など

▼申込方法 市立図書館、市民会館、各支所、若草つどいセンターに備え付けの申込用紙に必要事項を記入し、図書館の在り方についての意見や考え方を市販の原稿用紙に400字程度にまとめ、5月20日(木)までに市立図書館(☎059-0012中央町5丁目21)に提出または郵送してください

▼申し込み・問い合わせ 市立図書館(☎4324)

ふれあう、つながる

三世代そば打ち体験教室

▼日時 5月23日(土) 10時～

▼場所 文化伝承館(片倉町6丁目・郷土資料館横)

▼対象 祖父母と親子の三世代家族、三世代で構成するグループ

▼定員 10組(申込順)

▼参加料 1組500円(材料代)

▼持参するもの ふきん(1組3枚)、エプロン、手ぬぐい

▼申し込み・問い合わせ 5月6日(水)から12日(火)までに社会教育課(☎1100)

ビデオ撮影教室

文化・スポーツ振興財団

▼日時 5月24日(日) 9時～15時

▼場所 市民会館視聴覚室

▼対象 市内に居住する20歳以上の方

▼募集人数 20人(申込順)

▼受講料 無料

▼持参するもの ビデオカメラ、撮影用ビデオテープ、昼食(雨天時は雨具)

▼内容 ビデオの基本的な撮影方法(講義と実技)など

▼講師 今均さん(STVニュースカメラマン)

▼申し込み・問い合わせ 5月18日(月)までに文化・スポーツ振興財団(☎1116)

カムイヌプリ山開き・市民登山会

登別山岳会

▼日時 5月17日(日) 8時30分

▼集合場所 カムイヌプリ3合目

▼参加料 500円(記念品代、保険料)

※当日は、山頂まで登ります。

▼問い合わせ 河村さん(☎2069)

生まれたねーちいさな君と大きな未来  
5月5日(火)～5月11日(月)は「児童福祉週間」です。



▶御衣黄



◀郷土資料館



▼花のトンネル



# このまちが 好き

『春色』のまち

のほりべつ

季節。春は、まちが桜色に染まる

暖かな日の光と風に舞う桜の花びら。日本の春は、桜とともに訪れてくるのかもしれない。登別にも、そんな春の訪れを楽しむことができる桜の名所があります。

JR登別駅から登別温泉に向かう道道洞爺湖登別線の『花のトンネル』（中登別町）では、5月の上旬から中旬にかけて、エゾヤマザクラとヤマザクラ、約2千本が満開となり、訪れる人の目を楽しませてくれます。

また、5月の中旬から下旬にかけて、片倉町の郷土資料館では、江戸時代、庶民の目に触れないように栽培されたといわれる珍しい桜『御衣黄』が淡い緑色の花を咲かせます。

今年、春の息吹を感じながら、まちをちよっと散歩してみませんか。

▼問い合わせ

○「花のトンネル」：登別観光協会（☎33311）

○「御衣黄」：郷土資料館

（☎13339）

となりまち

## ホットライン

### 室蘭市

白鳥大橋記念館（愛称・みたら）に

ぜひお越しください

白鳥大橋の資料やパネル、映像による室蘭の紹介、主塔からの景観など、見どころ盛りだくさんの『みたら』にぜひお越しください。入館は無料です。

▼主な内容 ○1階：室蘭の四季やまち・胆振の観光名所・日本の橋を映像で紹介、白鳥大橋の設計から完成までをパネル・動く模型・写真などで紹介 ○2階：主塔カメラからの景観の放映と合成記念写真撮影、四季を通じて白鳥大橋や大黒島、風車が展望できる展示室

▼場所 室蘭市祝津町4丁目16-15（室蘭水族館向かい）

▼開館時間 10時～21時（4月～10月は無休、11月～3月は毎週木曜日休館）

▼問い合わせ 室蘭市観光振興課（☎3176）

### 伊達市

新緑の有珠山で森林浴ウォーキング

伊達市観光協会は、安全祈願祭を兼ねた「第8回有珠山さわやかウォークフェス」を開催します。

昭和52年の噴火以来、20年余の月日が流れた有珠山。すがすがしい新緑の季節に森林浴をしながら、さわやかな汗をかいてみませんか。

▼日時 5月24日（日）9時30分集合

▼集合場所 旧有珠山登山バス会社跡地（道南バス有珠駅前下車徒歩10分。無料駐車場があります）

▼コース 登山道と遊歩道の2コース  
※11時30分から山頂で安全祈願祭を行うほか、豚汁のサービスがあります。

▼問い合わせ 伊達市商工観光課

（☎014223331）



◆人のうごき 人口56,173(-461) 世帯22,832(-121) 平成10年3月末日現在 ( )は前月比

■発行・編集 登別市総務部企画広報室（広報広聴）☎059-8701 北海道登別市中央町6-11 ☎0143-2111 FAX 0143-1108